

児童発達支援 事業所における自己評価総括表

○事業所名	HIYOKO REHABたけくま 多機能		
○保護者評価実施期間	2026年 3月 1日 ~ 2026年 3月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27	(回答者数) 8
○従業者評価実施期間	2026年 3月 1日 ~ 2026年 3月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 4月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	各種専門職による個別支援、集団支援を提供しており、多角的な視点から療育に携わることで内容ある支援が出来ます。今後も職員一丸での療育を継続して行っていくます。	児童一人ひとりの課題や目標に合わせた個別支援計画に基づき支援を行っています。支援の中で得られた気づきを職員間で共有し、多角的な視点で評価、検討を行いながら、支援の質の向上につなげています。	ケース検討やミーティングの機会を増やして専門職同士の連携をより強化します。また、保護者様や関係機関とも情報共有を行い、支援の一貫性を高めていきます。
2	土曜日、祝日、学校休業日を活かしてお出かけなどの課外学習を定期的に行い公共の場でのルール理解につながるように体験出来る機会を多く設定しています。	土曜日、祝日、学校休業日を活用し、事前に目的や約束事を確認した上で外出活動を行っています。公共の場でのマナーやルールを実践的に学べるよう、職員が声かけや見守りを行い、成功体験につながるよう支援しています。	児童の発達段階や特性に応じた外出先の選定や外出活動の事前学習(写真、絵カード、スケジュール提示)を充実していきます。

3	月1回は必ずスタッフ、利用児童も含めて不審者対応訓練、災害発生時の避難訓練等の多様なケースを想定した訓練を行っています。	毎月1回、職員、利用児童を含めた訓練を実施し、災害や不審者対応等の状況に応じた行動が取れるように支援しています。	利用児童の理解が深まるよう絵カードやマニュアル整備を行い、保護者様とも連携しながら家庭での備えにもつなげる情報提供を行っています。
---	--	--	---

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所や幼稚園など地域で他の子ども達と関われる機会を設けることが出来ませんでした。	地域の保育所や幼稚園との連携体制が十分に構築できておらず、交流活動を企画するための窓口や手順が明確化出来ていません。	連携を進めるため、担当者を決めて連絡窓口を明確にし交流活動の実施に向けた計画を立てることを検討します。
2	保護者様の交流する場を設定することが少なかったです。	行事や保護者会等の開催計画が十分に立てられておらず事業所として交流の場を継続的に設ける仕組みが不足していました。	保護者様同士が情報交換や相談を行える機会を確保するため保護者会や茶話会、オンラインも活用した交流会等の計画を企画していきます。
3	事業所としてご家族に対して家族支援の研修や情報を提供する機会が少なかったです。	事業所で家族支援や情報提供する機会を多く設定することが出来ませんでした。	家族支援の研修の実施や情報提供できるよう努めてまいります。